

2013 年度

武蔵野美術大学 造形研究センター リサーチフェロー研究発表

シンポジウム

新たな発想、新たな創造

— 統合データベースが開く新たな可能性 —

武蔵野美術大学造形研究センターが5年にわたって取り組んだ「統合データベース」が2013年度から一般公開されました。武蔵野美術大学が所蔵する図書・雑誌から貴重書・美術資料・映像資料・民俗資料までの横断検索を可能としたこのシステムが、これからの美術・デザインの制作や研究に与える可能性は大きなものがあります。ここでは、造形研究センターのリサーチフェローが、作品制作・研究の最前線から自らのテーマと関連した統合データベースの可能性を実証実験した結果を報告します。このシステムを活用する学生・大学院生などの利用者にも、システムの改善にあたるスタッフや研究者にも、参考となる事例を準備していますので奮ってご参加ください。

I 「統合データベースって何？」

田中正之 [美術館・図書館長 / 造形研究センター長]

太田英輝 [美術館・図書館]

II 「統合データベースが開く可能性」

司会進行: 高橋陽一 [本学共通デザイン/教職・学芸員課程教授]

■「大正期の学校園」

田中千賀子 [リサーチフェロー(元) / 東京家政大学助教]

■「空き地と作品制作」

小澤啓 [リサーチフェロー / 美術家]

■「シナリオがなく手法で成り立つ映像」

孫 于景 (ソン・ウギョン) [リサーチフェロー / 映像作家]

■「ワークショップをめぐって」

朴 炫貞 (パク・ヒョンジョン) [リサーチフェロー / 映像作家]

■主催

武蔵野美術大学 造形研究センター

■日時

2013年12月11日(水)

16:30 ~ 18:00 (16:00 開場)

■場所

武蔵野美術大学 美術館ホール

予約不要

どなたでもご参加いただけます。

■お問い合わせ先

武蔵野美術大学 美術館・図書館

図書資料担当 TEL 042-342-6004